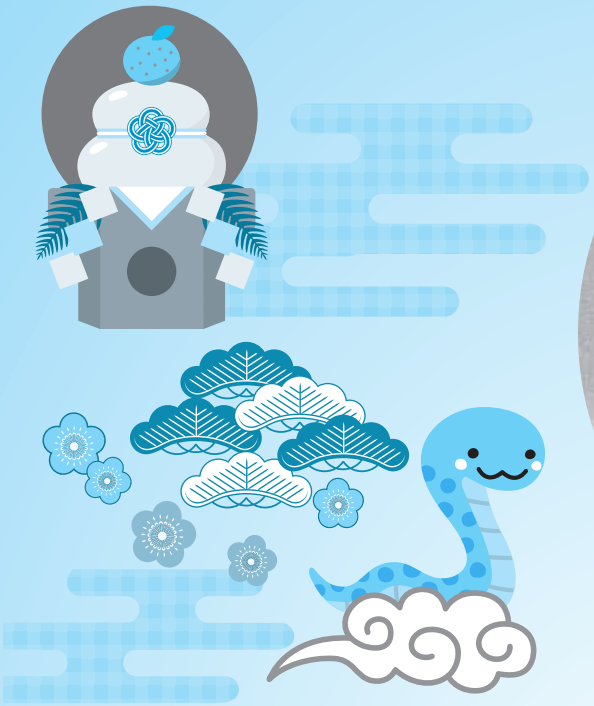
新年にあたり
～夢七訓～

代表理事組合長
原　浩



新年明けましておめでとうございます。
組合員の皆様には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます
平素はＪＡふかやの事業運営に格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
令和６年は、３月に日銀がマイナス金利政策を解除し、金利のある世界へと回帰しました。また、20年振りとなる新紙幣が７月３日に発行され、新１万円札には「渋沢栄一翁」の肖像が使用されたことから、発行日の前後に深谷市内では様々な記念イベントが行われ、メディアで大きく取り上げられたことは記憶に新しいことと思います。
そして、令和６年も元旦の能登半島地震をはじめ、地球規模で自然災害・異常気象に見舞われた１年となりましたが、この傾向はこれからも続いていくものと感じています。気象庁の発表によりますと、１８９８年の統計開始以降、日本は２年連続で最も暑い夏（６月～８月）を経験しました。まさに、毎年が当たり前のように自然災害や異常気象と向き合うこととなり、それを前提に物事を回していく必要に迫られている、そんな地球環境になったように思います。
令和６年のＪＡふかや管内の農業情勢ですが、前半は野菜類全般について比較的好調を維持できておりましたが、６月以降は高温の影響を大きく受けました。野菜では病害虫の発生が増え、花き類については夏場の出荷量の減少や品目によっては品質低下を招くなど、この傾向は11月まで続きました。米の状況については、買い占めによる不足感から「令和の米騒動」と言われる事態にまで至りました。令和６年産に関しては、５年産に比べ品質が改善したものの、カメムシの大量発生や高温の影響で収量は大きく減少しており、各地で新米の集荷競争が発生し、米価上昇に拍車がかかっています。
10月の総選挙の結果はご存知のとおりです。11月11日に第２次 石破内閣が発足し、農林水産大臣に江藤拓衆議院議員が就任しました。部分連合で政権運営に臨むことから、農業政策等について停滞することがないよう期待しているところです。いずれにしましても、政府には農産物の適正な価格形成に向けた仕組み作りを、待ったなしで急いでほしいと思っています。生産コストの激しい高騰に晒されながらも、価格転嫁は進まず、再生産が可能なレベルには届かない、非常に厳しい現実が続いています。生産コストが価格に適正に反映されなければ、農業を続けることは難しくなります。本年もＪＡグループを挙げて、食料安全保障の観点からも国民の皆さんに向けて適正な価格形成に向けた理解促進に努めてまいります。
令和７年が組合員・地域の皆様にとって良き年となるようご祈念申し上げ、年頭の挨拶といたします。本年もよろしくお願い申し上げます。
※渋沢栄一翁の夢七訓
「夢なき者は理想なし　理想なき者は信念なし　信念なき者は計画なし　計画なき者は実行なし　実行なき者は成果なし　成果なき者は幸福なし　ゆえに幸福を求むる者は夢なかるべからず」